

報告



第35回技術士全国大会 (中四国支部・島根) 参加報告

技術士(建設部門) 石村 正一

1 はじめに

第35回技術士全国大会は、2008年10月17日～20日の4日間の日程で島根にて開催され、北海道からは大島支部長はじめ、25名が参加しました。

以下に大会の内容を報告いたします。

2 大会の概要

(1) 大会のテーマ

今大会のテーマは「神話の國で語る未来技術の創造」～環境と地域再生へのメッセージ～であります。大会宣言どおり、古代文化発祥の地(島根)で、先人の知恵と技術を学び、その恩恵に浴しつつ、新しい時代に伝承していくことの大切さを実感できた大会でした。

(2) 会場

大会は、島根県松江市の「ホテル一畑」と「ホテル白鳥」で開催されました。松江市は松江藩の城下町で、会場のホテルは北海道の屈斜路湖や支笏湖と概ね同じ面積のしじみで有名な宍道湖のほりにあります。

(3) スケジュール

【10月17日】

- ・第5回技術者倫理研究事例発表大会
- ・第4回全国防災連絡会議、親善ゴルフ
- ・ウェルカムパーティ

【10月18日】

- ・全国大会(分科会、分科会報告、記念式典、記念講演、交流パーティ)
- ・パートナーズツアー

【10月19～20日】

- ・テクニカルツアー(「世界遺産」石見銀山、三瓶

小豆原埋没林、出雲大社、古代出雲歴史博物館など)

3 全国大会

(1) 分科会

大会の中心行事である分科会は、4つの分科会が設けられ、以下のテーマで話題提供と意見交換が行われました。

第1分科会：環日本海を取り巻く環境技術

第2分科会：汽水域・水辺の環境

第3分科会：地域に根ざした技術と地域振興

第4分科会：青年技術士が考える地域社会



写真-1 第3・4分科会会場の様子

(2) 記念式典

600名を超える大会参加者が揃った会場で、式典が開始しました。主催者挨拶に続き、7氏の祝辞がありました。祝辞の中で松江市長は、平成18年7月に34年ぶりに市街地が浸水し、一週間にわたって都市機能がマヒしたこと、現在「平成のおろち退治」と称して「斐伊川・神戸川治水事業」が、鋭意進め

られていることなどを話されていました。

また、松江城は2011年に築城400年を向かえるにあたり、現在、築城記念として5ヶ年かけて様々なイベントを実施しているそうです。



写真-2 記念式典の様子

(3) 記念講演

記念講演に先立ち、古代笛演奏～古代浪漫への誘い～が50分ほどあり、雰囲気盛り上げました。記念講演は「たたら製鉄の技と精神」と題して、国選定保存技術保持者・玉鋼製造の木原明氏が講演されました。

たたら製鉄とは、日本古来の代表的な製鉄法のことを言い、我々の祖先が営々として築き上げた日本独特の製鉄法で、千年以上の歴史をもつものです。日本刀の原材料となる玉鋼は、^{たまはがね}「たたら製鉄」のみで生み出され、科学的知識のない先人が現場での経験を通じて創意工夫により完成した技術であり、現代の科学でも解明出来ない神秘的な技術だそうです。



写真-3 講演の様子

講演の内容は、その玉鋼の製造技術と伝承、玉鋼と日本刀について、「たたら製鉄」から学ぶ「ものづくり」「ひとづくり」についてでした。講演の中で特に印象に残ったのは「現場、現物、現実」の「三現主義」を大切に、世界に誇れる「日本のものづくり技術の伝承」が重要だとお話しになられていたことです。世界の大国には、資源大国、金融大国、ものづくり大国の3つくらいで、「ものづくり大国」を目指す日本にとって、技術の伝承は大切な事だと感じました。

(4) 交流パーティ

会場を移して交流パーティが実施されました。

アトラクションとして、神話の「八岐大蛇^{やまたのおろち}」が演じられました。華やかな笛、太鼓のお囃子、大蛇退治の演舞はとても迫力があり、約30分の公演でしたが、神話の國を感じたひとときでした。島根に行か



写真-4 神楽

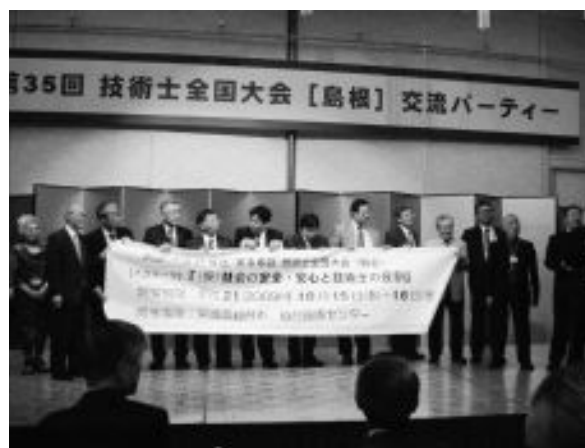


写真-5 次回PR

れたら一度見られることをお勧めします。

今回の全国大会は、来年10月15日～16日の期間、東北支部の仙台市で開催されます。大会テーマは、「(仮) 社会の安全・安心と技術士の役割」です。

(5) テクニカルツアー

10月19日から1泊2日の見学会に参加しました。

2007年7月に日本で14番目に世界遺産登録された「石見銀山」や「小豆原埋没林公園」「出雲大社」「古代出雲歴史博物館」などを見学しました。

古来から旧暦の10月は、日本中の神様が出雲(島根)に集合するため、「神無月」と呼ばれていますが、逆に島根では「神在月」と呼ばれているそうです。見学した出雲大社には、日本国歌の「君が代」の歌詞にある「さざれ石」が奉納されていました。さざ

れ石の学名は、石灰質角礫岩で長い年月の間に溶解した石灰石が多くの小石を集結して次第に大きく生長したものだそうです。

4 おわりに

今回の全国大会は、この伝統ある日本を存続繁栄させるために必要な「ものづくり」の技術と伝承の大切さを実感できた大会でした。

最後に、NHKの朝の連続ドラマ「だんだん」でも知られつつある、出雲弁を少し紹介して終わりにします。

「だんだん＝ありがとう」「えーすこ＝いい感じ」「がいな＝すごい・大変な」「まげに＝うまい具合に」「がっしょで＝一生懸命に」「によばんこ＝娘さん」「おべる＝ビックリする」。



写真－6 石見銀山の町並み



写真－7 さざれ石